

アドベンチャーレース国際大会

アウトドアの魅力発信へ

来年白馬で 関係者が村に協力要請

白馬村を拠点に、長野県でアドベンチャーレース(AR)の国際大会を2018年に開催する計画が動いている。世界が注目する

レースの開催を通じ、豊かな自然環境とさまざまなアクティビティがそろった日本のアウトドアの魅力を発信する。関係者は25日、村役

場を訪れ、下川正剛村長に実現に向けた地元自治体の協力を求めた。ARは、女性を含む3〜4人のチームで、地図を見ながらルート

を探し、トレッキングやマウンテンバイク、ラフティング、崖でのロープワークなど、さまざまな種目を重ねゴールを目指すスポーツ。大会は、来年度から始まる世界6カ国を巡

る新シリーズの1カ所。国内外の40チームがエントリーし、3日間で250キロを走破するレース。白馬村を発着地に、中信から北信にかけての山岳や河川などを含んだコースが計画され、時期は山開き直前の来年6月を見込む。

選手はGPSで追跡され、インターネットを通じて観戦もできる。地元では一般向けの小規模なレースも併催し、ARの裾野を広げること狙う。長野県は20年ほど前に国内初の大会が開かれた場所、大町市などで毎年ローカル大会が開かれている。豊かな自然景観やアウトドア環境に恵まれ、国際大会の経験も豊かとして選出された。

大会事務局長の久保田亜矢さんは「白馬はARに必要な全てが満たされている場所。ぜひここをアピールしたい」と協力を求めた。



下川村長に協力を求める大会事務局